

学校経営と地域づくりの一体化

—「コミュニティ・スクールの推進による地方創生—

山口大学教育学部教授 ● 霜川 正幸

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。11月11日(水)～13日(金)に山口県光市で開催された実践塾の内容について、主任講師の霜川正幸氏にご報告いただいた。

光市から発信する意味

現在、地方自治体の多くは、人口の減少、産業の衰退やコミュニティの機能低下等の課題を抱えている。地方の弱体化が国全体の成長鈍化をもたらすことは論を俟たない。待ったなしの地方創生が求められている。

地方創生の主体は「人」であり、取り組みの多くは次代を担う「子どもたち」に託されることを忘れてはならない。故郷に誇りと愛着を持ち、「志」を立て地方創生に生きる人材育成が求められ、学校・家庭・社会教育の果たす役割は極めて大きい。こうした中、各地の学校ではコミュニティ・スクール(学校運営協

動性が強く感じられる所である。今回の実践塾は、光市の創造的・先進的な実践に学びながら、地方創生における教育の意義と役割、学校教育の方向と学校改革のあり方、地域づくりとCSの可能性等について、各地の「志」あふれる仲間たちと意見を交え、考えを深めて、それを全国に発信する内容とした。

1日目：地方創生と教育を考える 講義・パネルディスカッション・プレゼンテーション

市川熙光市長の開講挨拶の後、光市企画調整課により「光市における地方創生の取り組み」が報告された。市政概要、地方創生施策、市民力育成と地域自治実現に向けた取り組み等が画像・映像と共に示され「人も、自然も、まちも光輝くまち」を実感した。

次に、北海道大学学務部長の出口寿久氏による講演「CSの推進による地域再生」が行われた。文部科学省において学校支援地域本部事業やCSの制度設計、普及啓発を中核的に担った出口氏の、CS導入の背景、現状と課題、学校を核とした地方創生のあり方等についての講演は説得力が極めて高く、地方創生における教育の意義、役割等に関する貴重な学びとなった。

続いて、浅江中CSに構想段階から参画する光市コミュニティ・スクールコンダクターの木本育夫氏、



地域の技術者が指導にあたる「あさなえ木工教室」を見学

浅江中学校区統括コーディネーターの金子功一氏に出口寿久氏と霜川が加わり、CSの実効性と課題に関するパネルディスカッションが行われた。校長として関与した木本氏は、学校教育活動と地域活性化事業をつなぐ意味、取り組みの具体と生徒の変容、教職員の意識改革の重要性を、地域づくり実践者として参画した金子氏は、学校との協働に対する地域の期待感、地域の変化と行政支援の大切さ等をそれぞれ語り、以後の研究の充実深化につながった。また、浅江中卒業生(教員志望学生)が自らのキャリア設計の源となった地域ぐるみの教育の魅力を話し、CSを活かした人材育成の実例を聞いた。

その後、光市教育委員会学校教育課長の石丸義臣氏は、講義「光市におけるCSの推進」の中で、教育委員会とのリーダーシップ、現状と課題、学校運営の質や教員の資質能力の向上、学校の活性化と地域への広がり

生徒の自己肯定感、チャレンジ精神、地域行事や地域貢献への意識が飛躍的に向上したとの報告は、CSが学校と地域の双方にとってよい関係を創り出す可能性を示したものととして特筆できる。

浅江中学校長の伊藤幸子氏、浅江中学校生徒代表と校外コーディネーターの末岡誠氏と3年生による発表「つながり日本一をめざして」では、「地域に支えられ地域に感謝」「15歳は地域の担い手」「人、つながりが郷土愛を育む」等、生徒が発する正直で力強い言葉に、生徒の成長やCSの可能性を確信した時間となった。

2日目：コミュニティ・スクールの魅力を体感する フィールドワーク①②・ワークショップ①

フィールドワーク①では、市内5



地域の皆さんとの意見交換会



グループワークの様子

中学校CSの実践発表が行われ、CSの形、推進組織、情報発信や地域教育力との連動等について比較研究を行った。「ポスターセッション」では、終了時間が来ても意見交換や交流が途絶えないブースが多く、印象に残った。

フィールドワーク②では、全員が浅江中を訪問し、地域人材を活用した授業、学校と地域の協働による実践、外国語指導助手による住民対象の英会話教室等を見学し、現場の事情にふれた。学校支援に参加した住民との交流会では、住民の生の声からCSの実効性を感じた。

後半はワークショップ①が行われた。今回の実践塾は、CSと地方創生に関する基礎的理解、先進事例を通じた実践研究、各地での動きの創出とリーダー養成に資するワークショップで構成されている。このうちワーク

ショップは、対象や内容から、拡散（実践交流）型ではなく開発（力量形成）型が望ましいと考えている。ここでは、架空の中学校長として、CSの設計、行政・教育課題の融

合を意識したプログラム編成を課題にすることとし、この時間は「情報収集」のワークを行った。

3日目：学校経営と地域づくりを構想する ワークショップ・総括講義

この日は「構想」と「編成」のワークが行われ、市長の立場（行政課題）と校長の立場（教育課題）に分かれて活発な協議や発表が展開された。各地の今後を思いながら、「自分の町でも早速このワークを実施して動

きを創る」という声も聞かれた。昨今、「地域の拠点としての学校」の姿がクローズアップされている。学校を拠点としたコミュニティや人の存在が、地域の結束力や元氣、安全安心を創出し、学校と地域の協働は地域そのものを活性化させる。地方創生に教育の視点からアプローチすることの意義と可能性を今回の実践塾は教えてくれた。今後の学校経営と地域づくりの一体化、CSの推進による地方創生を参加者全員で誓い、3日間の全日程を終了した。

地方創生実践塾（山口県光市）の概要

第1日目 11月11日（水）

光市の紹介（光市企画調整課）

講義① 基調講演「コミュニティ・スクールの推進による地域再生」

特別講師 北海道大学学務部長 出口 寿久氏

講義② パネルディスカッション

コーディネーター 山口大学教育学部教授 霜川 正幸氏

パネリスト 北海道大学学務部長 出口 寿久氏

光市コミュニティ・スクールコンダクター 木本 育夫氏

浅江中学校区統括コーディネーター 金子 功一氏

講義③ 「光市の取り組み」

講師 光市教育委員会学校教育課長 石丸 義臣氏

講義④ 「浅江中学校の取り組み」

講師 浅江中学校生徒代表及び同校外コーディネーター 末岡 誠氏

浅江中学校長 伊藤 幸子氏

第2日目 11月12日（木）

フィールドワーク① 5校区代表者による発表及びポスターセッション

講師	室積中学校	教頭	井上 春樹氏
		教諭	植野 寿理氏
	光井中学校	教頭	安田 尚弘氏
		教諭	平本 信雄氏
	浅江中学校	教諭	藤田 猛氏
		教諭	宮内 秀一郎氏
	島田中学校	教頭	内山 昭博氏
		教諭	中原 雅史氏
	大和中学校	教頭	中村 英樹氏
		教諭	今元 裕次郎氏

フィールドワーク② 浅江中学校訪問

ワークショップ① グループ討議

主任講師 山口大学教育学部教授 霜川 正幸氏

第3日目 11月13日（金）

ワークショップ② グループ討議・発表

ワークショップ③ 総括

主任講師 山口大学教育学部教授 霜川 正幸氏